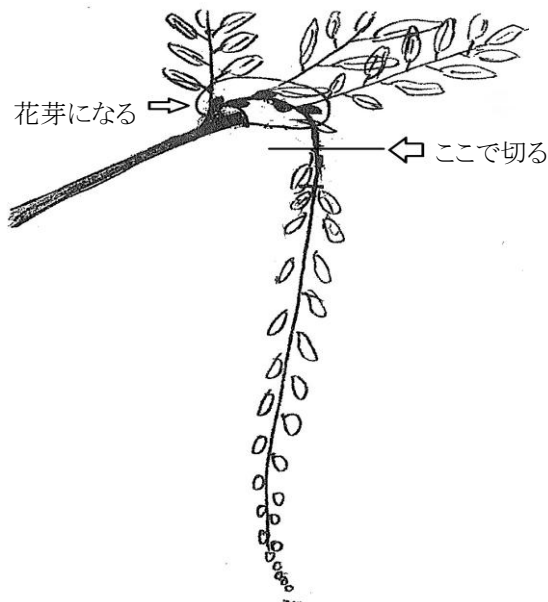


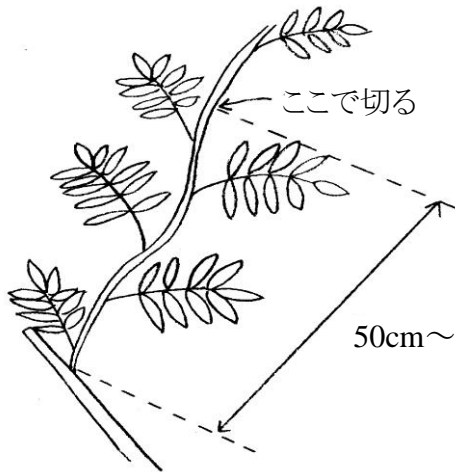
藤の育て方

- 1 生態 マメ科の植物です。日本では本州、四国、九州の山地に分布しており、山間部の沢沿いや湿地帯に多く見られます。
- 2 生育環境 日当たりを好む植物です。
生育期の5月～8月の間は特に水を好むので乾かさないことが大切です。
- 3 用土 鉢植えは、赤土または黒土に腐葉土を2割程度混ぜたものを用います。
- 4 肥料 礼肥 花後の5月頃に行います。即効性のある肥料を使用。(化成肥料や液肥)
 花が咲かずに、つるを早く出している時はやらなくてよいです。
 寒肥 1月～2月に行います。有機質の肥料を主体に。
 油粕、鶏糞、化成肥料を2:2:1の割合で混ぜます。
 鉢の上の外側にばら撒きます。
 肥料が強いとつるが伸びやすくなり、花芽がつきにくくなります。
 追肥 6月～9月の間で、葉全体が黄色みがあり、ツルの出が悪いときに行います。
 化成肥料を少量あげます。
- 5 植え替え 時期は2月～3月上旬。
3年に1回程で、鉢は同じ大きさか、一回り大きいものにします。
- 6 剪定 5月 花がら取り
藤は実を作るとそちらに栄養を使ってしまうので、そこで花の時期が終わり次第、花がらを取ります。
葉を切らないよう先端の芽から2cm先を切り落とします。
残った元の部分は短花枝となり、翌年の花芽になりやすくなります。



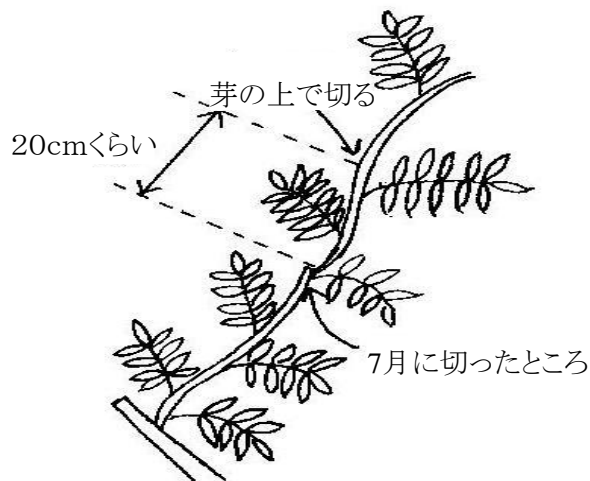
7月 夏剪定(1回目)

新しく伸びたつるを50cm～60cm残して切ります。
つるを伸ばしたままにすると日当たりや、風の通りが悪くなります。
また胴吹き(幹から出たつる)や、ひこばえ(地面から伸びるつる)はもとから切りとります。



9月 夏剪定(2回目)

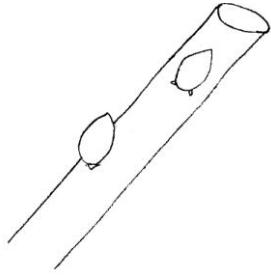
7月に切ったところから伸びたつるを20センチほど残して切ります。
また胴吹き(幹から出たつる)や、ひこばえ(地面から伸びるつる)はもとから切りとります。



1月 冬剪定

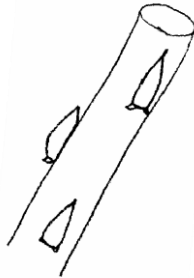
花数と枝の間隔の調整や、樹形を整えるため、剪定を行います。
この時期は花芽と葉芽の区別が付きやすいです。

花芽の特徴



芽はふっくらしており丸みがある。
昨年咲いた花の元(短花枝)に良くつく。
強く伸びたつるの根元にはつきづらい。

葉芽の特徴



芽は細く尖っている。
日当たりの悪い所によくつく。
強く伸びたつるの根元に多い。

剪定の流れ

- 1 枯れ枝、ひこばえは元から切り取る
- 2 夏の間、太く強く伸びたつるは、元の方に花芽が付きづらくなります。
翌年にも強いつるが出るので、枝を作る必要が無ければ元から切り取りとります。
- 3 枝すき
花が咲いたとき、長く下に垂れるのを予想して、
全体を見てから花同士が重ならないようにすくように切り、枝の間隔を調整します。
- 4 不要なつると短花枝を抜く
混んでいるところの調整を行います。
また、真上や下に伸びた短花枝は将来樹形をくずす元となるので、切り取ります。
- 5 長いつると短花枝をつめる
1つの花芽から30cm~40cmの花が咲きます。
多くの花を咲かせすぎると見た目が悪くなり、
来年以降の枝の型をくずす原因にもなるので、花芽の数を調整します。
花芽の数は1本の枝に3~5芽程度のをし、切り取ります。

